

アジア・オセアニア 豆 知 識



ASEANで広がるニュー・エコノミー

2016年あたりから中国発のサービス（シェアリング・エコノミーやモバイル決済、無人コンビニなど）の話題を耳にすることが多くなってきました。こうしたサービスは中国のみならず、ASEANの国々からも生まれており、急速にニュー・エコノミーの裾野が広がっています。

マレーシアで人気！乗り捨て自由のシェアリング・サイクル



公共の場所であればどこでも乗り捨て可能で、借りた場所に戻さなくても良い点が支持されている
(出所) TNCアジアトレンドラボ

成長著しいASEANの国々では、中間所得層が増え、インターネットにアクセスできる層が着実に広がっています。こうした流れに、スマートフォンの普及が相まって、ニュー・エコノミーの進展を後押ししています。

たとえば、マレーシアでは、シンガポール発の「O Bike」のシェアライド・サービスが2017年4月にスタートし、現在、トレンドとなっています。交通渋滞を気にせず移動できることや、健康志向の人が増加していることなどが利用者増を後押ししています。

自転車に乗る場合はアプリを使い、「QRコード」でスキャンをしてロックを解除する仕組みで、利用料金は低価格に設定されています。

スマホで決済 キャッシュレス社会へ移行中のタイ

タイ政府は、2016年に「ナショナルペイメント（プロムペイ）」を導入、国をあげて電子決済の推進に取り組み始めました。また、2017年11月には、主要5銀行間で、統一規格の「QRコード」を使った電子決済も始まりました。

事業者は、金融機関からQRコードを取得。消費者はレストランなどでの支払い時に、店舗に設置されたQRコードにスマートフォンをかざし、読み込むことで現金を利用しなくても、自身の銀行口座などから引き落とされる仕組みとなっています。

現在、タイでは、日常生活の支払いは現金中心で、クレジットカード利用者は少ないため、「QRコード」決済の普及は、今後、キャッシュレス化を加速させていくものとみられます。



露店や屋台などでも支払いは「QRコード」で
(出所) TNCアジアトレンドラボ

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。